

きょうりつ 便り

特集
新病院新築移転5年を迎えて
災害拠点病院
当院にDMAT発足

お仕事カルテ
薬剤室

Vol.30

2019.9.
Autumn
<http://www.hiroshimairyō.or.jp>

秋号

特集

新病院新築移転 5年を迎えて

地域連携部 権藤正広、看護師 村上成美、院長 村田裕彦、研修医 草本慎一



広島共立病院は9月1日で新築移転して丸5年を迎えました。開院10日前に広島土砂災害が起こった当時のこと、そして5年間の取り組みについて、村田院長が、5年前に入職した村上看護師、今年入職した草本研修医、そして地域連携部の権藤さんと共に振り返ります。

新病院へ移転する当時について

権藤「新病院建設の計画はいつからされていたのですか」

院長「2008年からです。検討を進めている最中の2011年に東日本大震災が発生し、それを機に新病院建設を急がないといけないという機運が高まりました。災害に強い病院にしようというコンセプトを基に本格的な設計に入っていました。そして2014年7月に新病院が完成。9月1日の開院に向けて引っ越し準備を進めていた8月20日、広島土砂災害が発生しました」

村上「災害が起きた日、私はお休みだったのですが手伝いに来ました。CTが壊れたり、大変でした。当時のことはとても印象に残っています」

院長「旧病院の1階部分が浸水して、CT室、厨房、検査室などが水に浸かりました。さらに1987年の増築部分は接合部から雨漏り、3階病棟は水浸しになりました。患者さんを移動させるにもエレベーターも浸水して使えず、人海戦術で運ぶしかなかった。職員の皆さんには大変苦勞をかけました」

草本「私も、民医連など医療機関の仲間たちがボランティアに行ったなど、話は色々聞きました」

院長「全国からたくさんの方がボランティアに来ていただきました。私たちも10日間は地域の皆様の被災状況を見たり避難所を回るなどし、その後、リハビリ棟の2階を12月25日まで避難所と



して提供させていただきました」

村上「ボランティアをされていた方が熱中症になって運ばれてきたり、家が流されて無くなったという方もいらっしゃって、私自身ショックが大きかったです。まだ入職して半年で、同じ地区でこんな大きな災害が起きるなんて…。何が起るかわからないな、と感じました」

広くてきれいな新しい病院へ

権藤「私は移転前から病院外の職場に勤務していましたので、久しぶりに病院に戻って来たらあまりにきれいで驚きました」

院長「コンパクトな旧病院から、面積1.4倍の横に長い病院へ移り、日々の業務で皆さん苦勞されたと思います。1～2年は慣れなかったのが実感です」

村上「物がどこにあるのか、なかなか把握ができず戸惑いました。エレベーターはどこだったか、とグルグル迷ったり。でも、きれいな病院はやっぱり気持ち良かったです。患者さんから、大部屋の狭さが改善されて嬉しいというお褒めの声もいただきます。そう言ってくると、モチベーションも上がりますね」

草本「手術室の壁の色や動線などには、担当の先生の意見が反映されているんですね、その話を聞くのが面白いです。他の病院の手術室の壁の色はホワイトかグリーンで、どこも一緒なので珍しいと思いました」

院長「ピンク、ブルー、ホワイト、グリーンと、手術室によって異なります。新鮮に感じていただけたなら良かったです」

権藤「私も、新病院は清潔ですね、と地域の方から声をいただきます。現状に満足することなく、癒しや安らぎがあるような、患者さんにとって良い病院にしていきたいですね」



薬剤室(5階)

広島共立病院の業務紹介をする「お仕事カルテ」。
薬剤部の津島景子部長が、薬剤室について紹介します。



目指すのは“顔の見える薬剤師” 病棟で気軽に相談できる存在に

病棟業務が中心で、外来は抗がん剤の混注のみを薬剤室で行っています。病棟業務では、入院される方が持参された薬の確認・整理と、医師から出た処方箋の内容が適正であるか確認して調剤します。患者さんに合わせ、飲みやすいように一包化することもあります。

病棟の患者さんの薬は、薬剤室で一人ずつケースに分けてセットして管理。その都度、看護師に渡すようにしていますが、自分で薬を管理できる患者さんには直接渡します。薬剤師自らが説明し質問に答えることで、少しでも不安が解消されることを願っていますし、私たちが“顔の見える薬剤師”になっていきたいと思っています。現在、病棟でのカンファレンスにも参加していますが、なるべく多く病棟へ出向き、たくさんコミュニケーションを取っていきたいです。

外来患者さんの抗がん剤の混注は、無菌製剤室で行います。混入する際のばく露がスタッフの健康に影響を及ぼす可能性もあると問題視されていますので、予防衣、マスク、手袋は二重にするなど防護具に身を包み、安全キャビネットの中に手のみを入れて作業するよう細心の注意を払っています。経験豊かなスタッフのみが行うことができる重要な業務です。



20代後半～40代までの薬剤師が活躍中 チェックの徹底と、知識の習得を強化

業務のなかで最も気を付けていることは、投薬ミスの防止です。処方箋の段階で、薬が適正に使用されているかチェック。高齢の方は腎機能の低下により体内に薬が溜まりやすくなりますので、投与の間隔を空けるなどの提案も行います。病棟の薬の管理は、カセット表示指名、処方箋指名、翌日分のセットを指差し呼称確認で徹底。中止になった薬についても各ケースに記すようにしています。また、スタッフによって受け答えに差や違いが出てしまわないよう、病棟から入った質問について共有することも大切です。今後も引き続き、研修会などに積極的に参加し、レベルアップを目指します。



「業務効率化とチェック機能の徹底で、安心・安全な医療を一番に心掛けています。気軽に声を掛けてもらえると嬉しいです」



薬剤部 部長 津島 景子



万全の体制で
備えます!

災害拠点病院

地域住民の皆さんの命を守るため、
災害拠点病院としての使命を果たします。

当院にDMAT発足

皆さん、DMATってご存知でしょうか？
DMAT〈ディーマツト〉とは災害医療派遣チーム(Disaster medical Assistance Team)の略称で、詳しく説明すると「災害発生直後から活動できる機動性を備え、トレーニングを受けた医療チーム」です。

1995年の阪神・淡路大震災で災害医療について多くの課題が浮き彫りとなり「避けられた災害死」が多数発生したことを教訓に、2005年に日本DMATが結成されました。

当初は災害現場や事故現場でのガレキの下の医療が活動の中心でしたが、現在では、「すべては被災者のために」という理念のもとで、災害現場での活動、救急車などで近隣の災害拠点病院に運ぶ地域医療搬送、患者をヘリコプターなどで被災地外に運ぶ広域医療搬送、被災した病院などで診療や搬送を行う病院支援、避難所や救護所での医療活動など、現地の医療ニーズに応じて柔軟に多種多様な活動を行うようになっていきます。

近隣局地災害時または遠隔災害時などに出動します。例えば、複数の都道府県に

被害が及ぶ広域災害が発生し、一つの都道府県では対応が不可能と判断された場合には被災都道府県より要請を受けて県外に派遣されます。

昨年12月に広島共立病院から5名の職員が4日間にわたる規定の研修・訓練を修了し日本DMAT隊員に登録されました。

当院DMATはまだ発足したばかりで実働経験もなく未熟なチームですが、今後も定期的な訓練を繰り返し、地域の皆様に頼られるDMATに成長していきたいと考えております。どうぞ、宜しくお願い致します。

医療の4本柱を推進

院長「新病院の構造は、急性期医療、リハビリテーション、健康増進、そして新規事業の緩和ケア、この4つを柱として設計しました。新病院が完成しハード面は整いましたので、これらを医療での4本柱として掲げ、推進しています。急性期医療に関しては、救急車が入りやすい構造にしておりますので、地域の救急医療により一層力を入れてまいりたいと思っています。リハビリテーションは急性期から回復期へ、よりしっかり取り組んでいきたいと、専門職も増やしました。現在、理学療法士26名、作業療法士13名、言語聴覚士7名が揃っています」

村上「私がいる緩和ケア病棟も非常勤の先生が一人増え、常勤1名、非常勤2名体制となりました。ここでは、患者さんの話をできるだけ聞き、とにかくそばにいる時間を増やすようにしています。さみしいとか、言いたいことが言えないという方も多いと思うので、なるべく寄り添っていききたいです。患者さんがやりたいことを聞いて、実行できるように尽くしていきたいです」

5S活動・Kaizenへの取り組み

院長「医療安全や感染対策の基本として、5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・躰）を病院全体でしっかりと取り組んでいます」

草本「いつから始められたのですか？」

院長「2011年頃からスタートしました。最初はなかなか浸透しなかったのですが、新病院になって取り組みを強化し、職員へ意識付けをしてきました」



草本「この病院に来たばかりの頃、患者さんから見えないところもかなりきれいに整頓されていて驚きました。物を片づけるところが決まっているので、業務もスムーズです」

専門職のスキルアップ

院長「設備や環境などは出来上がりましたので、今後は人の育成に注力していきたいと思っています。職員を増やす、専門スタッフを育てる、質を高めるなど、中身を充実させていくことが課題です。今年の春、災害拠点病院の指定を受けましたが、災害に関する研修会を増やすなどしています。各専門職の中で、院内外の研修会や勉強会で積極的に学ぶ機会が作られていますが、今後レベルを上げていきたいです。村上さんは、国際HPH*カンファレンス*に参加されました」

村上「去年参加しました。イタリアのポーニャで腰痛体操を発表したのですが、6年間続いていると伝えると『続いていることがスゴイ』とおっしゃっていただけました。他の国、地域によって抱えている問題は違うけど、健康増進に向けて働いているのは一緒。海外での勉強は価値観も変わるし、新しいことを吸収できる貴重な機会です」

院長「また、新入職員の研修のレベルも上げていきたいと思っています。医師は厚生労働省が定める研修プログラムに従って取り組んでいます。より質の高い内容を目指してい

草本「緩和ケアの病棟は、キッチンがあったり、季節感を感じられる飾りつけがあったり、環境の良さをいつも感じています。回復期リハビリテーション病棟で月1回実施しているバイキングも良い取り組みだと思いました。」

村上「緩和ケア病棟はボランティアの方たちが飾りを作るお手伝いをしてくださるんです。あと、月に1度開催している季節のイベントのサポート、アロママッサージや音楽などもとても助かっています」



院長「健康増進は事業としては健診が中心となりますが、実は新病院で一番手狭になっている部門です。旧病院よりはいぶ大きくしたけれど、多くの方に利用していただいています。たくさんの方に来ていただいているのは、職員の頑張りもあると思います。もっと広くしておけば良かったと感じるほどです」

村上「言われてみると確かに、以前よりも自然と取り組めるようになった気がします。環境が整っていると仕事もしやすいので、現場でも積極的に取り組んでいきたいです」

院長「5S活動の推進と同時にKaizen(業務改善)活動も進めています。昨年度にはTQM(Total Quality Management)センターを設置して総合的に質を向上する仕組みを作りました。先進病院を参考にしながら段階的に進めていき、文化にしていきたい。この取り組みが事故防止にもつながりますので」



きたいですね」

草本「今研修医としてまだ4カ月ですが、高いレベルでの学びを得ることができると感じています。自分の目指すことは、患者さんが医師に対して求めていることに応えられるようになること。医学とは、応えるための技術・手段であると思うので、ここでスキルを育てていきたいと思っています」



左から、地域連携部 権藤正広、看護師 村上成美、院長 村田裕彦、研修医 草本慎一

*HPH…WHOが推奨する「Health Promoting Hospital and Health Services」による協議会。患者、職員、地域住民の健康水準の向上を目指す。

「第13回 8.6平和集会」を開催

広島共立病院で8月6日に開催している平和集也会今年で13回目を数えました。約100人がセミナールームに集まり、9月いっぱいまで勇退される青木克明前院長が、原爆症認定された方の手当が減額されている問題や被爆2世健診の現状などについて報告。そして8時15分に全員で1分間の黙とうを行いました。

また、長崎での原水爆禁止世界大会に参加する草本研修医から、大会への参加への思いと挨拶がありました。

最後に共立ひよこ保育園の園児たちによる可愛い「折り鶴」の合唱を聞き、全員で「青い空は」を歌い、核兵器の廃絶と世界の平和を願いました。



【健康教室を開催しました】

2019年5月25日(土)

「尿漏れケア始めませんか？」

広島共立病院 皮膚・排泄ケア認定看護師
竹田 麻衣子

参加していただいた方から、主人が悩んでいて参考になった、尿漏れ体操が大変参考になった、不安だった気持ちが解けて安心した、等の声を多くいただきました。



2019年6月22日(土)

「骨粗しょう症とお口の健康」

中筋歯科クリニック 院長
松本 紀幸

骨粗しょう症の治療に関する学びを得る中で、全身の健康は「お口」に関連していることを痛感しました。会場からは、自然に質問も飛びかい、講師の先生と対話のできるとても有意義な時間を過ごすことができました。



2019年7月27日(土)

「いざという時のために、応急手当を学びましょう」

広島共立病院 集中ケア認定看護師
中村 紀子

応急処置についての知識を持つことで「救命の連鎖」の輪をつなぐ役割を担うことができるということ学びました。また、最近ではスマホアプリでも救急車を呼ぶか判断ができるそうです。



お知らせ

「健康教室」は当院や地域の医療従事者が講師となり、地域の皆様の健康づくりをサポートします。事前申し込み不要、どなたでも参加できます。お気軽にご来場ください。

地域まるごと健康づくり「健康教室」

開催場所／安佐南区総合福祉センター [広島市安佐南区中須1丁目38番13号]

- | | | |
|---|--|---|
| <input type="checkbox"/> 2019年8月24日(土) 14:00～15:30
「ロコモとサルコペニア-フレイルの予防について-」
●講師：広島共立病院 リハビリテーション科 上田 真理乃 | <input type="checkbox"/> 2019年9月28日(土) 14:00～15:30
「早期からの緩和ケア-緩和ケア病棟はどんなところ?-」
●講師：広島共立病院 緩和ケア認定看護師 有田 まゆか | <input type="checkbox"/> 2019年10月26日(土) 14:00～15:30
「生活習慣病について」
●講師：未 定 |
|---|--|---|

お問い合わせ先／広島共立病院 地域医療連携センター ☎082-879-1111(代)

理念

患者の人権を守り、安全・安心で信頼される医療を実践します。

基本方針

1. 無差別平等で質の高い医療を提供します。
2. 患者第一を貫き、患者・住民との共同の営みの医療をおこないます。
3. ヘルスプロモーション活動で、患者・職員・地域の健康状態を改善します。
4. 地域での保健・医療・福祉のネットワークづくりを推進します。
5. 職員教育を重視し、いきいきと成長する専門職を育てます。
6. 平和な社会をめざし、社会保障を守り発展させる活動を強めます。



アクセス ●JR可部線大町駅より 徒歩 約5分
●中須バス停より 徒歩 約3分
●アストラムライン古市駅より 徒歩 約5分

アストラムライン上安駅・大町駅、フジグラン緑井店前より無料送迎バスを運行
※赤矢印は午前7時～9時は進入禁止です。



広島医療生活協同組合
広島共立病院
〒731-0121 広島市安佐南区中須2丁目20-20
TEL.082-879-1111(代)
E-mail ☒ kyoritsu@hiroshimairyo.or.jp